

京都市 農林業だより



発行 京都市
産業観光局
農林振興室
農業計画課



〒604-8571
京都市中京区寺町通御池上る
上本能寺前町 488 番地
電話 (075)222-3351

http://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/soshiki/7-4-0-0-0_1.html

市民との協働による森づくり

森と人とを育む

西京区にある御陵山田市有林は、平成14年に寄付を受けたもので、約12haの広さがあります。かつては、広葉樹が主体で、竹は少なかったのですが、寄付を受けるまでの間、管理が行われていなかったため、現在では竹が面積の約8割を占めるまでに拡大しています。本市では、竹の除去と、竹林の再整備を行ってきましたが、竹の生育は旺盛で、適切に管理することが難しい状態でした。

そこで、この地域で竹林整備を行っているNPO法人京都土の塾と管理協定を締結し、森林の公益的機能を生かした森づくりを行っています。

さらに、この森づくりを通じて子供たちに竹林や里山の手入れ、そこに生育する様々な生きものとの関わり方などの環境教育活動を行っています。物質文明の発達した現代社会では、森と人との関係が薄れており、森

の中で五感を研ぎ澄ます機会も少なくなっています。そのため、市民の参加による森づくりを通じて自然との共生を学び、たくましく生きる力を取り戻すことが大切です。

昨年度は、その第1歩として市民参加のもと、広葉樹林に侵入した竹の伐採と玉切り作業を行いました。

本市では、より多くの方に参加してもらえよう、今後も市民との協働による森づくり活動を広げていきます。

そこで、この地域で竹林整備を行っているNPO法人京都土の塾と管理協定を締結し、森林の公益的機能を生かした森づくりを行っています。

さらに、この森づくりを通じて子供たちに竹林や里山の手入れ、そこに生育する様々な生きものとの関わり方などの環境教育活動を行っています。物質文明の発達した現代社会では、森と人との関係が薄れており、森



整備前



整備後



市民参加による森づくり

お知らせ

雪の森都市フェスティバル

と き：平成22年1月31日(日)
と ころ：山村都市交流の森

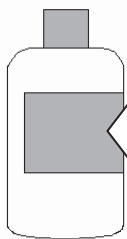
農薬は正しく、安全に使用しましょう！

農薬を安全かつ適正に使用保管することは、農産物の安全確保や農業生産を安定させることにつながるだけでなく、市民の健康の保護や生活環境保全の観点からも大変重要です。農薬の安全かつ正しい使用と保管管理、使用現場における周辺への配慮について今一度見直し、農薬による事故の発生防止に努めましょう。

農薬を使用するときには、次の4つのポイントをチェックしましょう。

チェックポイント ①

農薬のラベルを確認しましたか？



- ・「農林水産省登録 第〇〇号」の記載があるか
- ・使用方法
- ・使用量または希釈倍数
- ・使用回数
- ・適用作物
- ・使用期限

チェックポイント ②

農薬散布の前に、周辺住民へのお知らせをしましたか？

- ・農薬散布の前に、近隣農家や周辺住民に、散布目的、日時、農薬の種類、散布者名（連絡先）等を知らせましょう。
- ・近くに学校がある場合は、学校や保護者へも連絡しましょう。
- ・散布場所に関係者以外が立ち入らないよう、立て看板などで表示しましょう。

チェックポイント ③

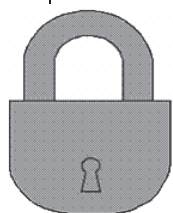
農薬の飛散防止、防護はできていますか？

- ・マスクや手袋、ゴーグル、防除衣などを着用しましょう。
- ・近隣農地への飛散防止を徹底し、風向き風速に注意しましょう。風が強いときは散布をやめましょう。
- ・学校等の周辺で散布するときは、散布の時間帯に細心の注意をしましょう。
- ・散布中に体調が悪くなったら直ちに作業を中止し、医療機関で受診しましょう。

チェックポイント ④

農薬の保管、使用記録はしっかりとできていますか？

- ・農薬は鍵のかかる場所に保管し、ペットボトル等の容器への移し替えはやめましょう。
- ・農薬の使用年月日、農薬名、場所、対象作物、使用量を記録しておきましょう。



こんな資材に注意しましょう！

農林水産省の登録がないのに、ラベルに

「害虫・病気によく効きます」

「病害虫に効く〇〇を原料としています」

などと書かれている資材があります。

このような資材は**無登録農薬**の疑いがあります。病害虫への効果も定かではなく、使用方法を誤ると薬害等を生じる可能性があります。

必ず登録された農薬を使いましょう。

認定農業者紹介7
右京区京北 西正幸さん

“人とのつながりを糧に”

今年の田んぼに咲く蓮華はとても綺麗でした。たくさんのカメラ愛好者がファインダーを覗き込んで撮影していました。その田んぼで33年間、農を生業に励んでいます。

水稻130a、乾燥・糲摺り、飯米加工の受託作業を中心に他には万願寺とうがらし200本を植栽しています。水稻は春秋が皆さんと同様大変忙しいですが、自分の限界を見ながら作業をしています。トラクタ・コンバインの受託作業は、井戸町を中心に地域の農業・機械好きの仲間6人と農地の荒廃を進めないために話し合いながら協力し作業しています。

33年間この地で農業を長く続けていた私に、遠くは新潟から青年が6ヶ月間研修に来られ、他にもたくさんの方に来てもらいました。若い方と話をするとみんな「農が生き

る力、生かされている喜びを伝えてくれる」と言ってくれることが私に力を与えてくれます。

また、山・農の体験を今もう一度考え行動する団体、NPO「和の学校」の取組にも協力していますが、都会と田舎のつながりの中で田舎文化の大切さを都会の人々が感じておられます。

このような時代だからこそ、人とのつながりをしっかりともって農を見つめ次代に続けていくためにも、これからも農業を楽しみながら続けたいです。



やりがいのある農業経営に向けて自らの経営を改善する意欲のある方は、ぜひ認定農業者制度を御活用ください。

本場の賀茂なすを守り育てて

「上賀茂特産野菜研究会」

上賀茂特産野菜研

究会は、平成元年、当時の若手農家の有志17名が発足させた生産者組織です。



発足当初は、すぐきの根こぶ病対策に取り組みましたが、平成3年頃、府内の他産地の小さい賀茂なすが「本場の賀茂なす」と新聞で紹介され、伝統が失われる危機感を産地として持つことがきっかけとなり、歴史ある本場の賀茂なすを守る活動を展開することになりました。

平成4年には、代々継承された種子をもとに会員が同じ苗を使って栽培されましたが、出荷量が安定せず、翌年には500本の賀茂なすを共同で栽培するほ場を設け、会員の栽培技術の向上や安定出荷を目指す取組も進めました。

現在は、平成17年に建設された集出荷場「グリーンハウス」で会員が交代で作業にあたり、5月下旬か

ら7月末まで、中央市場や料理店等へ共選共販体制で賀茂なすを出荷しています。平成20年は約5万5千個を出荷し、今年はさらに多くの出荷を目指し作付け本数を増やしました。

今年5月17日(日)には、東京にある京都市の総合情報館「京都館」にて『本場・京都洛北の賀茂なす東京PR大作戦』を上賀茂特産野菜研究会と京都市農協上賀茂支部が共同で開催し、会員が持ち寄った賀茂なす200個を販売するなど、本場のこだわりを発信しました。



「本場・京都洛北の賀茂なす東京PR大作戦」の様子

発足から20年経過した今、会員は22名と増え、後継者への世代交代も進み若い力に溢れています。研究会の活動を通じて、会員は切磋琢磨しながら、伝統ある賀茂なすを守り育てる活動に取り組んでいます。

●農地法面管理の省力化対策
「グラウンドカバープランツ」

夏場の草刈りは、農家にとって最も大変な作業の一つです。その草刈りに係る労力をグラウンドカバープランツ（地被植物）で軽減する取組が市内でも行われています。

グラウンドカバープランツの中で広く利用されているのが、洋芝の一種センチピードグラス（写真1）です。

草刈り後の法面に、種子、パルプ、工業用のり、肥料を水で攪拌したものを柄杓で均一にまき付けます。

まき付け適期は4月上旬から7月上旬までです。必要な道具は、バケツ、ひしゃく、混和用具（おけや棒）などで、簡易な道具で比較的安価に施工できます（表1）。

（表1）センチピードグラス蒔き付け施工の資材等の例

資材名	使用量(m ² 当たり)	価格(円/kg)	備考
種子	2.5~5.0 g	約 10,000	センチピードグラス
養生剤	50 g	50	古紙再生パルプ
工業用のり	1.5 g	1,000	高粘性高分子化合物
化成肥料	20 g	90	発芽後も良い
水	1 l	—	

※1m²当たり資材費=約50円



（写真1）ぼ場整備後の法面に施工したセンチピードグラス2年目の状況（左京区大原）

注意点は、法面上部を中心にまき付けることと、施工後2、3年（芝が法面を覆うまで）は年3回程度地際5cmほどを残して草刈りをする事です。芝が法面を覆うと、雑草の成長が抑えられ、年1回程度の草刈りで法面管理が行えます。

ほかに、グラウンドカバープランツとして利用できるものには、ヒメイワダレソウ（写真2）やシバザクラ、スイセン、ナデシコなど



（写真2）ヒメイワダレソウ

農村景観の保全に役立つ美しいものもあります。

第40回 「京・ゆめ・花文化」 ～ともに生きる。人と花と緑～
花と緑の市民フェア開催



WBCの日本優勝を記念し、決勝戦が行われたドジャースタジアムを表現した大装飾花

第40回花と緑の市民フェアが4月25日（土）・26日（日）の2日間、左京区岡崎の京都市勧業館（みやこめっせ）で開催されました。会場では、ひととき目を引く大装飾花、洗練された切花・鉢物、装飾品のほか、特別企画の小学校花壇の写真展示、京都発祥の観葉植物のコーナーが人気を集めていました。



花のある生活スタイルを提案

雨天にも関わらず、約一万九千人の市民が訪れ、お目当ての花や園芸用品を購入したり、たくさんの花を眺めお茶席コーナーでくつろいだりする来場者で会場は賑わいました。本催しは今回で40周年を迎えますがその原動力は「花の魅力をもっと市民にアピールし、京都のまちを花いっぱいになりたい！」という花き業界の熱意であり、今後もフラワールードをはじめ、花の名所づくりや花育活動への支援等、花き生産者をはじめとする花き業界の活躍がさらに期待されています。